

中山間地域フォーラム平成21年度事業報告

1. 専門家・実務家のネットワークの構築

フォーラムの広報に努め、中山間地域の再生に熱い思いを抱く全国の産学民官の有識者394名の会員によるネットワークを立ち上げた。また各都道府県の中山間地域問題担当課の方に引き続きフォーラムのアドバイザーをお願いし、ご協力いただいた。

2. 学際的・実証的な研究会の開催

(1) 創立3周年記念シンポジウム(21年7月11日)

「どうする中山間地域等直接支払制度—現場の声を制度設計へ—」をテーマに、橋口卓也氏(明治大学)から研究報告を、安田修氏(糸魚川市根知地区)及び水津良則氏(津和野町堤田集落)から事例報告を、窪田稔博氏(新潟県農林水産部)から新潟県の提言説明を、当日参加者の方から「現場からの3分提案」を、仲家修一氏(農林水産省中山間地域振興課長)からコメントを、それぞれしていただき、橋口氏の司会によるパネルディスカッションを行った(参加者125名)。

(2) 「中山間地域フォーラム in くまもと」(21年10月10-11日)

「多面的機能から中山間地域を考える」をテーマに、熊谷宏氏(前・東京農業大学)及び米澤和彦氏(熊本県立大学)から講演を、大薄孝一氏(熊本県)、坂口静義氏(跡ヶ瀬牧野組合)、西口文克氏(宮地岳営農組合)、山本光洋氏(熊本市)、矢代緑氏(富士電機システムズ)から事例報告をしていただき、荒木昭次郎氏(熊本県立大学)の司会で、熊谷宏氏、山中進氏(熊本学園大学)、内山慶治氏(山江村長)、澤田道夫氏(熊本県立大学)をパネリストに、パネルディスカッションを行った(熊本県及び熊本県立大学と共同で開催、参加者350名余)。

(3) 緊急シンポジウム(21年11月14日)

「新政権に問う! どうする農山村政策」をテーマに、今井良博氏(岐阜県白川町長)、安藤周治氏(NPOひろしまね代表)及び小林和彦氏(きらり水源村事務局長)から問題提起を、続いて郡司彰氏(農林水産副大臣)から講演をしていただき、守友裕一氏(宇都宮大学)の司会で、メールで事前提出された意見も踏まえてパネルディスカッションを行った(参加者125名)。

3. モデル地区についての実証的検討や支援活動

モデル地区に選定した群馬県南牧村について、県、村、農村工学研究所と連携し、支援活動を進めた。台風被害により思うように活動できない時期もあったが、22年2月に商工会青年部の若者達を中心となり「明日の南牧を創る会」が設立されることになった。点検ワークショップを開催した星尾地区では、4月に御柱祭が開催されフォーラムからも10名が応援に駆けつけた。当初は「今回限り」というあきらめの気持ちであったが、よそ者の応援を受けた地区では「次につなげていこう」という前向きな気持ちが生まれてきた。

4. 都道府県・市町村・集落等からの要請に応じたアドバイスや支援

5. その他

- ① 「全国水源の里連絡協議会」と引き続き連携して活動し、情報誌「水の源」への編

集協力・投稿等を行った。

- ② 農村工学研究所の「農村研究フォーラム2009 “農村地域の安全・安心のための社会工学と防災工学の連携”」を共催した。
- ③ 地球緑化センターが実施する第 17 期「緑のふるさと協力隊」事業（募集期間：平成 21 年 6 月より、活動期間：平成 22 年 4 月～23 年 3 月）を後援した。
- ④ フォーラムのホームページ <http://www.chusankan-f.net/> について、会員の山岡辰男氏のご協力により全面的な改善を行うとともに、地域再生に関する専門家・実務家を登録・紹介する「地域再生アドバイザー」、地域づくりのノウハウなどを交換する「地域づくりお知恵拝借」、会員が情報や意見を気楽に交換する「ひろば(掲示版)」、フォーラム役員が執筆した記事等を紹介する「私の時論」などのコーナーを設置し運営を行った。
- ⑤ フォーラムの活動を紹介するパンフレットを作成し、広報資料として活用していくことにした。
- ⑥ フォーラムの会員レター 20 号、21 号を発行した。